

長年のステロイド治療後に7か月休職し職場復帰した成人アトピーの経過 (32歳男性)

症例 ID：001-30-NS | 記録日：不明

1. 診断・治療前経過

幼少期から湿疹ができやすく、大学期から顔にも赤い腫れが出るようになりました。就職後は全身症状が強くなり、ステロイド外用と内服を長年続けました。結婚後に再燃し、複数の医療機関で外用、内服、注射による治療を受けましたが、顔面を中心に強い症状が続きました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	幼少期から外用薬を使用し、成人期にはステロイド外用・内服・注射を受けました。
製品名	不明です。
強度	複数の強度を使用しました。
使用期間	幼少期から松本医院受診前まで長期に使用しました。
中止時期	1993年10月頃の松本医院受診時です。
来院前／後	来院前に長期使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
幼少期～大学期	慢性経過	湿疹範囲が広がり、大学期には顔面にも症状が出ました。
就職後	悪化	全身症状に対して毎日ステロイド外用を続けました。
結婚後	再燃	顔面の赤い腫れと熱感を伴う強い症状が続きました。
1993年10月頃	治療開始	松本医院で治療を開始しました。
開始1週間～1か月	症状拡大	全身の斑点、落屑、痛み、顔の亀裂と浸出液が出ました。
治療中	ピーク	瞼の腫れ、全身の痛み、不眠、強い疲労がありました。
約7か月間	休職	皮膚症状のため仕事を休みました。
1994年5月頃	回復傾向	落屑が減り、皮膚が整い始めました。
1994年6～7月	社会復帰	職場復帰し、健康な皮膚状態へ戻りました。

4. ピーク時期

ピークは、治療開始1か月頃から、顔の亀裂と浸出液、瞼の腫れ、全身の痛みと不眠が重なった時期です。

5. 困りごと

- 全身の痛みと皮膚過敏により衣類や空気の動きでも痛みを感じました。
- 睡眠薬なしでは眠れず、約7か月休職しました。
- 顔面症状により人前に出る仕事で心理的な負担がありました。

6. 経過のまとめ

約8か月の治療経過で落屑と痛みが軽減し、1994年6月に職場へ復帰しました。
同年7月には健康な皮膚状態へ戻り、通常の社会生活を送れるようになりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。